

仕合わせの和



第226号

令和3年 1. 1
(毎月1日発行)

迎春



「ソーシャルディスタンス」・「クラスター」・「パンデミック」・「テレワーク」。昨年は聞き慣れないカタカナを多く耳にしました。本当に世界中が一変し、不安に満ち、自由のきかない一年でした。

今年の初詣では、全国の神社仏閣は感染防止に勤め、安心して参拝が出来るよう準備をしています。真成寺も早朝五時励行の新春初参りも例年通り、コロナに負けじと多くの参詣者で、検温、消毒を徹底し、また午前8時から開始の特別祈禱を受けられた方々には、「密」を控える為、今年に限り、御神酒やお茶等のご接待を控え、受付でお茶菓子をお渡しすることにしました。何卒ご理解下さいませ。さて正月飾りとして神仏にお供えする「鏡餅」。その語源は平たく丸い餅の形が昔の銅鏡（弥生時代から伝わる鏡のことで、生活の必需品）に似ていると平安時代に書かれた「源氏物語」に記述があるそうです。

全国的には白い餅を二段に重ねた鏡餅が用いられますが、お隣の石川県では上段を紅（あか）く着色した紅白の

真成寺ホームページ



玉蓮山 真成寺

編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でも
お寺につながります。

鏡餅が飾られます。これは加賀藩の前田家による由来があると以前聞いた覚えがありますが、詳しい内容はよく知りません。しかし、お正月になると、お寺の位牌壇に、檀家の皆さんが自主的に各家の位牌の前にそれぞれがご持参されたお鏡餅と、橙（だいだい）や、ころ柿（くし柿）をお供えになります。以前は位牌壇に所狭しと沢山の鏡餅が並びましたが、近年は、親からの言い伝えがなくなってきたのか、お供えされる姿が少なくなり、一抹の寂しさを感じます。それでも伝統をご存知の方々は、毎年必ずお供えになり、一年のお札と、来る年の祈願を込めて、一心に合掌されている姿を見かけます。大変尊い事があります。そして新たな年の始まりに、まず菩提寺の三宝諸天善神、宗祖日蓮大聖人、そして今の自分が存在するというご先祖様からつながる命と信仰に報恩感謝の気持ちで合掌する姿は、誠に尊く、その御心を子々孫々に受けついでもらいたいものです。

「一切の善根の中に、父母に孝養を尽くすは第一にて候」。これは身延山におられた日蓮聖人が信徒に宛てたお手紙の一部です。

『全ての善行の中で、父母に孝養を尽くすことが第一である』
とのご教示です。

どうぞ、本年もよろしくお願ひ
申し上げます。

住職 谷川寛俊

